第２５号

東稲ニュース

早稲田大学東久留米稲門会

平成１７年１１月１０日発行
発行責任者　帆角　信美
編集責任者　比護　喜一郎
http://homepage2.nifty.com/35292/

会の告知板

12月 4日(日) 13:00～14:30 第6回役員会第 中央公民館2F
15:00～16:30 18回東久留米稲門会講演会 中央公民館2F
演題　『松本清張の世界』　米光　慶二郎氏（会員　３６年文）
（詳細添付案内書参照）

17:30～　役員・部会長忘年会　於「志乃」
23日(金-祝日) 第15回ウォーキングを楽しむ集い
―護国寺から雑司が谷鬼子母神を経て早稲田キャンパスへ
（詳細添付案内書参照）

1月21日(土) 17:30～20:00 東久留米稲門会新年会　成美教育文化会館
（詳細追ってご案内）

[大学・校友会関係]
11月13日(日)　東村山稲門会総会

[部会スケジュール]

グルメ部会　１１月１９日（土）第９回グルメ探訪―手打ち蕎麦を味わう会
１３：３０～１５：００　東村山　そば季彩“はや川”
（詳細添付案内書参照）

散策山歩き部会　１１月２０日(日)　高尾山　（詳細添付案内書参照）

書道部会　例会毎月第２日曜日　１３：３０～１６：３０　中央公民館２Ｆ
１１月２５日（金）～２７日（日）第３回書道部作品展
成美教育文化会館１Ｆギャラリー

太極拳部会　毎週土曜日　１０：００～１２：００　成美教育文化会館１Ｆ

囲碁部会　１１月２６日(土)～２７日（日）　合宿　湯河原“ホテル城山”
１２月２５日(日) 例会/忘年会

ゴルフ部会　１２月２日(金)　熊谷ゴルフクラブ　（詳細添付案内書参照）

俳句部会　１２月２３日（祝日）第６９回例会後忘年会　滝山“銀山”

東稲広報室

○「東稲ニュース」の編集責任者が次号(第26号　2006年1月発行)より、井坂　宏氏(38年・工)にバトンタッチされ、比護喜一郎(37年・商)は「杜の西北」の担当となります。(10月30日付)

○早稲田大学昭和55年卒年次(昭和51年次入学を含む)稲門会並びに昭和45年卒年次稲門会が11月相次いで創立されました。該当卒年次の会員諸兄姉には既にご案内のことと思いますが、詳細は平山事務局長又は大学総長室校友課/校友会事務局にお問い合わせ下さい。

○平成１７年度会員登録動勢
１１月１日現在、総勢１６９名で前年度より２名増。早稲田大学創立１２５周年記念事業募金にはこの内１１９名が応募。本年度当会応募総額２３８，０００円は１１月９日大学に献納済。(前年度比　４３名、８６，０００円減)

○ 校友会費納入促進キャンペーンが遂行中です。皆様のご協力をお願いいたします。（新規納入申込書添付―既に納入済みの方々は破棄下さい）

会の行事

納涼会

９月１０日（土）、２年ぶりに納涼会が開催された。未だ残暑厳しい午後５時３０分、成美教育文化会館に参集した会員５０余名（会員夫人数名を含む）は、チゲ鍋をつつきながら、暫し童心に帰りビンゴゲーム、ジャンケン勝ち抜き戦などを楽しんだ。新入会員の自己紹介の後、最後に校歌を斉唱して８時半散会。

第11回映画鑑賞会

9月17日(土) 14:00より市民プラザホールにて「旅愁(September Affair)」(監督 ウィリアム・ディターレ 主演ジョーン・フォンテイン、ジョセフ・コットン)を放映。立ち見客が出るほど超満員の観客は、大ヒットしたテーマ曲「September Song」が流れる中、往年の名画に酔った。

第14回ウォーキングを楽しむ集い ―さいたま吹上のさわやかコスモスの道

平成１７年10月 16日(日)、昨夜から降り出した雨が未だ上がらない中、東久留米駅には久家さんが中止を伝えに来ていた、回りには土屋さん菱山さん太田さんが居られそこに平山夫婦が加わり結局５人で決行することになった。

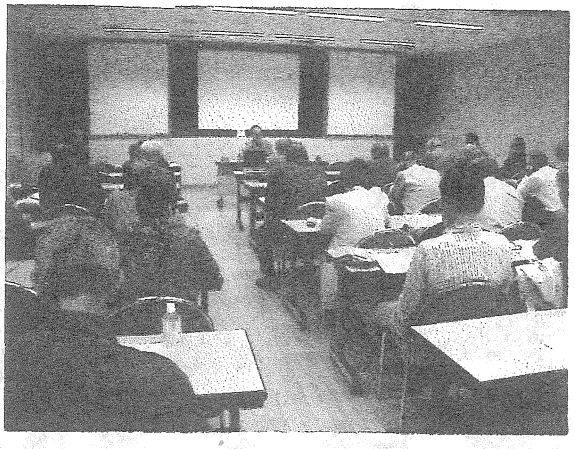
予定通り池袋から北鴻巣駅へ約 1 時間雨は上がっている、田圃は稲刈り後の株に稲の葉が伸びて淡い緑と土肌のコントラストが美しい、そんな道を20～30分歩き荒川土手に出る、土手の脇をコスモスの濃い赤の帯が左右に曲線を描いて何処までも連なっている。ここからは荒川と言っても川は全く見えない荒涼とした河川敷が続いている。その中には軽飛行機場あって1～2機は離着陸を繰り返している、またハングライダーも大空を浮遊している。土手際にはソフトボールのリーグ戦が行われている会場があり屈強な女子選手や関係者がグランド内外に思い思いの時間を過ごしている。

昼食はここにしようとグランド脇のベンチを占有して 5 人のランチタイムが始まった、お互いのお弁当を味見しつつ子供の時のような楽しさに浸った、回りには我々のような花見客が三々五々同じ場所で弁当を広げだしている。腰を上げグランドの裏手にある広大なコスモス畑の展望台に上がるとピンクや紫の中に白いコスモスが「真心」という文字を浮かび上がらせているコスモスの花言葉だそうだ。再びコスモス街道を行き送水管の大鉄橋を過ぎパノラマ公園を通りコスモス街道と別れる、途中真っ白なコスモスのが続く畦を抜け

吹上駅まで一駅分 6Km を完歩した。タイミング良く湘南ライナーを捕まえ帰路に今日は上品なメンバーのためか打ち上げは無しとなった。　（平山　正徑記）

第17回東久留米稲門会講演会

10月30日(日) 午後3時、成美教育文化会館3F大研修室に約50名が出席し、東久留米自主防災研究会を主宰する荒川正行氏(会員)/金澤淳氏(東久留米三田会会員)による講演「東久留米市の防災上の問題点と課題」が開催された。初めて東久留米三田会との共催として開講されたものだが、行き届いた調査データと映像での解説は、身近な問題であるだけに多数の一般市民を含めて一同熱心に聴講した。



時間が足らなかったことは否めず、講師の荒川さんは毎月第3木曜日13:15より市役所会議室(原則) にて開催している同研究会の月例会への出席を促されて、残念にも終演となった。

＊本講演要旨は当会ホームページに掲載予定であり、当日の講演資料は当研究会にて幾分残有しておりますので、入手希望の方はお申し出下さい。

鮎貝盛和（東久留米自主防災研究会事務局・当会幹事講演会責任者）

＊10月29日(土)実施予定の東京六大学秋季リーグ早慶戦観戦会は天候不順につき中止となりました。

大学・校友会の行事

早稲田大学校友会東京三多摩支部大会開催

１０月２日（日）午後６時半から昭島市昭和の森「フォレスト・イン昭和館」で開催。大学より白井総長臨席、当会より帆角会長市川/菱山両副会長、松崎/森田両幹事が出席。

早稲田大学代議員総会

１０月１日(土)　１６時より大隈講堂にて開催。安次峰、山岡、平山代議員が出席。これ迄の代表幹事小林栄一郎氏が顧問となり、新たにアイオイ損保代表取締役会長の瀬下明氏が代表幹事に就任。父母会員の年会費を４，０００円とすることを新たに会費規程に定めた。（正会員は従来どおり５，０００円）

2005稲門祭

10月23日、馬場で満員のスクールバスに潜り込み、大隈小講堂に着いたのは集合時間

5分前の9時55分。実行委員の役割は6つに分かれていて、昨年同様「福引販売・記念品銅像前班」になる。

文句のつけようのないほどの秋晴れの中、10時過ぎから作業を開始。準備ができるとしばらくは手持ち無沙汰だったので周囲のテントの観察。お向かいは長野県須坂稲門会、「おやき」とリンゴが並んでいる。その隣は、お酒、たこ焼き等を売っている西東京稲門会。写真担当の井坂さんが西東京の方達と談笑し、時々ニコン400F のシャッターを押している。去年、梨ブランディーを振舞って下さった白井稲門会のテントも見える。私達のテントに高橋前会長が顔を見せ労ってくださる。

正午前に式典が終わると、人・人・人・・・・。セールスもしないのに次々と券が売れていく。

2004年とは大違いだ。銅像を背にして合唱団のOB・OGとおぼしき面々が校歌、応援歌のメドレー。素晴らしいハーモニー。私の時代では考えられなかったチンドン研究会の着物姿の女子学生達が「越後獅子」等を奏でながら、福引券の宣伝もしてくれる。謝々。
福引券販売終了間際に2万円の銀時計2個が売れた時は、テント中に大歓声。2時30分販売終了、総売上げは2000万円を超え、その半分強を大学に寄付することができた。

今年も実行委員を担当させて頂いたお陰で、多くの稲門会の方々と昨年以上に和やかに交流することができ、その上船橋稲門会員の後輩との37年ぶりの再会というおまけまでついて、大変うれしい充実した一日を過ごすことができた。 種々ご協力下さった当稲門会の皆様、本当にありがとうございました。

“校友の絆の強さ 秋高し” （稲門祭実行委員会福引景品班 河村洋子）

早大校友会主催総長杯争奪ゴルフ大会

１１月７日(月)、おおむらさきＣＣで開催。当会よりは出場者なし。

小平稲門会総会（１０月１５日）、清瀬稲門会総会（１０月２９日）開催

夫々帆角会長/平山事務局長、帆角会長/菱山副会長が出席。余興にソプラノ・コンサート（小平）、清瀬市交響楽団の演奏（清瀬）などが催され、総会に彩を添えた。

早稲田大学商議員会

７月１６日、早大新棟８号館にて開催された。当会より安宅元会長、帆角/菱山/平山各議員が出席。大学の近況・事業報告のあと、新施設見学し懇親会に移った。

慶応義塾東久留米三田会「東久留米秋の歌声コンサート」

１０月９日(日)午後１時３０分より中央公民館にて、慶応義塾東久留米三田会主催による「東久留米　秋の歌声コンサート」が開催された。出演は慶応義塾ワグネル・ソサイエティ男性合唱団（明治３４年に発足、後にダークダックスを輩出している）と東久留米文化協会所属の井上淑子さん並びに地元少年少女合唱団「みずうみ」。当会員も多数参加。

部会便り

郷土研究部会

―東久留米市無形文化財「南沢獅子舞」を見学して

平成17年10月14日（金）15日（土）４年ぶりに「南沢獅子舞」が開催された。この獅子舞は、五穀豊穣や無病息災を願って江戸時代初期より秋祭りの奉納行事として行われてきており、南沢獅子舞連により保存継承されている。獅子頭をかぶり腹に太鼓をつけた２匹の雄獅子と１匹の雌獅子が笛や謡にあわせて踊る他「太刀つかい」歌舞伎のような口上をのべる「世流布」おかめ・ひょっとこの「神楽」も一緒に行われ15日の夜には最終に全国でも類をみない「万歳」が実施される見所である。

しかし、当日は開催直前に雨が降り出し各出し物は短縮され、メインの獅子舞も短時間に終了した。雨のため当日の参加者は10名、予定より早く終了したため残念会を開催した。

PS：時間の連絡が悪かったため御迷惑をかけました。４年後に再度企画する予定です。

（部会長　高橋　哲男）

太極拳部会

１０月１日(土)、例会の後、創部４周年記念祝賀小宴を開催。２２名の参加者が秋の味覚に舌鼓をうちながら、クイズ解きなどのひとときを楽しんだ。

俳句部会

四万はやさしい湯の町である。山々に囲まれた四万川の渓流沿いに古い旅館が立ち並ぶ群馬県北部の小さな温泉街。太宰治ら多くの文人墨客も訪れた。１０月１６日朝、直行バスで東京を発った俳句仲間１４名（女性５名）が老舗旅館「たむら」に着いたのは昼頃。豪壮な入母屋造りの茅葺屋根の玄関が私達を迎えてくれた。どの店の軒先にも「雨やどりどうぞ」「トイレ貸します」と書かれた木札が下げられている人情味溢れる街である。また、先頃NHKで放映されたテレビドラマ「ファイト」のロケ地にもなった。

早速吟行にゆく。時々晴れ間ものぞく爽やかな空気を吸って四万川ダムまで小一時間歩いた。漸く色づき始めた山々に囲まれて、奥四万湖はコバルトブルーを溶かした宝石のように美しく神秘的であった。次の日向見薬師堂は街はずれの木立の中に佇ち、慶長３年建立の唐風様式は、小さいが古色蒼然として、国の重要文化財の名に恥じない風格を備えていた。

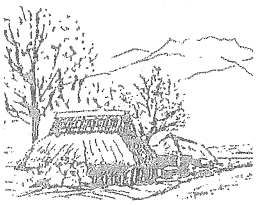
宿に戻って投句。５時から選句と披講。いつも「季重ね」に厳しい太田千雪(蔵之助)さんから今回はお褒めの選評を頂いた。その後宴会に移り、酒を酌み交わしながら宿自慢の料理「入母屋づくし」に舌鼓みを打ち、館内１１種類の湯めぐりなどしながら旅の疲れを癒した。

翌１７日は名物新そばを食べたりして温泉街を散策。元禄７年創

業の日本最古の湯宿で、県の重要文化財「積善館本館」などを見物しながら、ゆっくり時を過ごし、午後秋深い四万温泉郷を後にした。　（桜庭　明）

本吟行句会高得点（3点以上）句

山峡の瀬音滾（たぎ）りて秋気澄む　神田　尚計
茅ぶきの旅籠の屋根や萩の花　河村　洋子
櫨紅葉ひっそり建てる薬師堂　桜庭　明
サワサワと稲架吹き渡る風の音　川島　知子
蒼き淵瀬の鳴る音や秋黴雨　大川　洋子（浩仙）
秋さびし茅葺屋根の籠堂　安宅　武一



囲碁部会

11月13日(日)に、早稲田大学新学生会館(記念会堂裏)で、第6回稲穂会が開催される。この大会は、首都圏在住の囲碁愛好家の校友と大学囲碁部現役が参加する個人戦で、当部会からも何名かの腕自慢が参加することになっている。

11月26日(土)から27日(日)にかけて、恒例の囲碁部合宿が湯河原温泉の「ホテル城山」にて行われることが決まった。今回は、従来の囲碁民宿を少しグレードアップした本格旅館のはずで、大いに期待し、奮って参加されたい。

9月の例会から、新人が1名加入。真に喜ばしいことである。　（部会長　辰己徳蔵）

女性サークル

10月3日(月)、秋日和の中、女性サークル7名で牧野記念庭園(大泉学園)を散策しました。

“花ありてこそ　吾もあり”　富太郎(1862～1957)

世界的植物学者　牧野富太郎博士はこよなく植物を愛し、園内には博士が発見したセンダイヤマザクラ、スエコザサ(妻の名をつけた)、ヘラノキ等340種もの植物が育てられています。又、記念館では標本、著書、顕微鏡など展示され当時のままの書庫が保存されてます。

“学問は底の知れない技芸なり”　美しい文字、繊細な花の絵はまさに芸術の域を越えたものでした。東京大学理学部卒業後、文化勲章授与さられ、今は広い学問の聖地を一般に開放し後世に伝えています。昼食は“梅の花”で楽しいひとときを過ごしました。　（部会長　棚野愛子）

書道部会

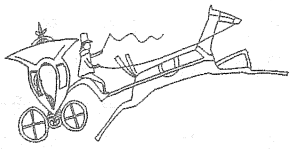
書道部第6回練成会―9月7日は大型台風14号が日本海沖を駆け抜けていた、久家さんの車に武藤、深澤、平山が同乗し時折の雨模様と強風の吹き付ける中、関越道渋川伊香保ICを10時半頃抜ける。車中の語らいから久家さんお勧めの利根川沿い落合簗で昼食を取ることにした、増水した利根川の激流を眼下にはちきれんばかりの卵をもった鮎の塩焼きを頬張る、多少の塩味とほのかな鮎独特の甘い香りに大満足。

風雨の中伊香保温泉に向う、伊香保と言えば石段、昼下がりの石段は人影も疎らだが傘を手に4～500段を登り切る。伊香保神社を参拝し温泉饅頭を買い戻った先の「石段の湯」

でひと風呂浴びる良い湯である。目的地の榛名湖は山道を登るほどに霧が濃くなり視界は10メートルも無い標識も見えぬ中を何とか無事レークサイドゆうすげに2時過ぎ到着、福田さんは今朝愛犬と共に既に到着していた高橋さんも単身でやや遅れて到着。6人揃ったところで練成会が始まる、部屋に各人の作品展用に仕上げた作品を貼りだし夫々について武藤、福田、平山等が優しく丁寧に時に厳しく講評、これも何時もながら練成会の風景になってきたようだ。
これらの完成品は11月25日(金)から27日(日)成美教育文化会館の作品展に展示されるので是非見て欲しい。土色の温泉に浸り会食、市の補助金￥1500を利用して料理をアップしたので内容は良い、書道談義で楽しさは尽きなく最後まで居残り飲む。更に部屋で二次会。酩酊するほどに激論が続くが12時頃就寝。
翌日は台風一過素晴らしい青空と山影が静かな湖畔に映し出されていた。8時15分朝食、9時15分出発、湖畔を巡り榛名富士山頂へのロープウエイに乗る下に榛名湖を眺めつつ頂上へ、山頂は大パノラマがそして遥か向うには富士山が小さくもはっきり見えた。そこから数キロの榛名神社に参る、凛とした杉の参道に側の清流が調和する、苔むした石柱の大小が往時の奉納者の名を留めている。本殿に近づくに連れ幾つもの奇岩がじっと立ちはだかっていた、往時のまま今に続いている本殿をお参りし、近くのベルウエアゴルフクラブでゆっくりとしたランチタイムをとり全員無事帰着した。
当書道部は昨年に引き続き第35回市民文化祭に作品を出展致します。皆様の参観をお待ちしております。平成17年11月2日(水)～6日(日)中央公民館2階。　　(平山　正徑記)

ゴルフ部会

10月14日(金)　入間カントリー倶楽部で東久留米WvsK戦が開催された。これで第4回目となったが、今回も稲門勢奮わず、僅か1．6ポイント差で敢え無く敗退、遺憾ながら4連敗となった。



＜会員リレーエッセイ＞　～噴水広場～

「首が回らない」

高柳　康夫　(33年・商)

「喉仏の下を一寸切りますからね」手術室に向かうストレッチャー(移動式ベッド)の上から執刀医の声がした。「あれ、後ろからではないの」と思ったが、俎板の上の鯉なので、声にならない。「ひと一つ、ふた一つ、み一つ、・・・」若い女性の看護師の顔がぼやけ、あっという間に闇の世界に引き摺り込まれた。
平成８年１１月５日、今から丁度９年前順天堂医院でヘルニアの手術を受けた日である。

それまで、手術というのは、３０年前に痔主で体験しただけであり、病院にも殆ど縁がなかった。尤も多少は体調を崩すこともあったが、兎に角働き蜂の世代、休みを取って病院に通うことは罪の意識につながったことは否めない。少々のことは無理を重ねて、滅私奉公にならざるをえなかった。還暦を過ぎてそのツケが回ってきたのかも知れない。

この年は６２歳半ば、気持ちは変わらないが、体力的にガタついて、機械は錆つき、配管はボロボロ、老化現象は水面下で着々進んでいたにもかかわらず、サラリーマン社会では「減点パパ」になることもあり、見栄を張ることが多かったことも事実だ。

この夏、営業担当の宿命か、北海道で出張ゴルフ３連雀、ユーザー接待、支社コンペ、流通業者との懇親が続いたが、いつもと違う違和感を覚えた。２日目、札幌のホテルで階段を降りる時足が痺れる。「どうしてだろう」「まあ、一晩寝れば何とかなる」と思いきや、３日目になるとティーアップができない。自分は乗せているつもりでもこぼれてしまう。「キャディさん、悪いけどこれからのホールはティーアップお願いします」「はい、わかりました」。でも、ホール毎に高かったり低かったり、自分では直せないから仕方がない。やっとグリーンに乗れば、パットはオトトイの方へ行ってしまう。頚椎と頚椎の間の軟骨が飛び出して、首の神経を圧迫し、脳の命令が末端に伝わらない。銀座４丁目で事故渋滞により車がスムーズに流れない感じだ。

風呂から上がり、反省会の席上、「高柳さん、それは首のヘルニアですよ、老化現象ですね。私の知り合いで手術したのがいましてね、その方はヨイヨイになりましたよ。だからやらない方がいいですよ」と問屋の社長さん。

帰郷後、溺れる者藁をも掴む心境で、順天堂の医師をやっている高校時代の友人に連絡、たまたま彼も捻挫で整形外科部長に診てもらっていることもあって紹介を受けた。ただ、その山内教授は、海外出張やら整形外科学会の会長職などで業務多端、暫く牽引を続けていたが、はかばかしくなく、MRI（磁気共鳴による画像診断法）診断の結果、手術を薦められた。「どうします」「このままだったら、どうなります」「やがてヨイヨイでしょう」「それならお願いします」と相成った。

手術は７対の頚椎のうち、下の方の５～６番目に飛び出している軟骨を取り除き、その隙間に無用の長物となっている骨盤の骨を埋め込むものであり、軟骨の代わりに硬骨を入れ、文字通り「恍惚の人」となった。術後は骨の手術と同じように、馴染むまで首の両側から５キロづつ砂袋で固められ、約１０日間身動きできないまま、天井の染みを数える日々であった。

これも偶然だが、この大先生は前社長と旧制高校時代に机を並べた間柄であったこともあり、教授と患者の距離は短く、気楽な関係で入院生活を過ごすことができた。週１の教授回診も、『白い巨塔』に描かれていたとおり、大勢の医師、看護師を随え、緊張感が漂う中、教授の一挙手一投足に目を凝らしていたが、小生との場面では、一言二言世間話程度で、なんだか拍子抜けの感があった。また、ある時は、「先生、腰椎もダメで痺れが止みません。首と一緒にやってくれたら良かったのに」「とんでもない。食道、気管をよけてやる手術は顕微鏡の世界で、ものすごく神経を使うんだ。腰だって首と同じように神経が走っているんで、二つなんて同時にできないよ。ただ。腰の方はまだ手術するまでもないから仲良く付き合っていきなさい」と一蹴されてしまった。

約１ヶ月半の入院を終え、暫く首輪をつけて出勤、「その方が似合うよ」と冷やかされたり、「結局ヘッドアップが強すぎたのではないか」とも言われたりした。翌年、教授からメンバーコースの「程ヶ谷カントリー」で前社長と回らないかとの誘いを受け、恐る恐る同行したが、首が回らないため、尺取り虫となり、以前と比べて数字は小さくなった。すかさず「お前は手術の仕方を間違えたのではないか。前より真っ直ぐ飛ぶし、右や左の旦那様でなくなった」と前社長の声。

その後、年１，２回のMRIのフィルムをもって診てもらっているが、大病院だと時間が

かかるので、近くのクリニックで撮ってもらい、そのコピーを携えて行く。クリニックの先生曰く、「この手術は誰がやったんですか。良くできていますね」とのご託宣。確かにその部位は収まったが、脊椎は繋がっており、やはり神経の通路は傷んでいる。腰椎の４～５番目のヘルニアはそのまんま、今でも両足は痺れている。両手指先の第一関節もジンときている。ただ、麻雀の盲牌は大体できるし、ゴルフも回数は激減したが、カートの助けを借りて何とかラウンドしている。

若いときは、そこそこ働いて人並みのシニアライフを送る設計図を描いていたが、そうは問屋が卸さない。もうひとつの「首が回らない」という世界は、年の功もあり、少しは和らいでいるかも知れないが、今や日々老化も進み、首も腰も十分に回らず、思うように体が動かない。「人生って自分の都合のいいようにできていないんだよ」「神様は意地悪だなあ」と思いながら、同時にやはりバランス感覚が優れているのではないかと妙に感心している。これからどこまで自分の体と仲良く付き合っていけるか分からないが、何とか宥めたりすかしたりして、、一緒に歩んで行くしかない。ただ、どうせ仲良く付き合うのなら、同性でない方とのほうが良いと願っているが、なかなか女神が微笑んでくれそうにない。

会員の声

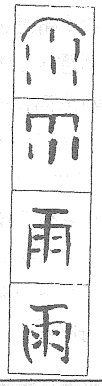
＜太極拳部員となって＞　　山口　謙二（49年・政経）

私が太極拳部に入会いたしましたのは、一昨年の1月でした。元々東洋的なるものに興味があり、一度見学した後に入会しましたが、初回に船尾さんから「君は以前やったことあるの？　割合良く出来るね」と巧くおだてられて、その気になったのが実際でしょうか。入会してみますと、私がどうも最年少のようで（当時51歳）、皆さんに可愛がって戴きすっかり居心地が良くなったことが今日まで続いた最大の要因のようです。その後若い女性陣が入会され、最年少の看板は下ろさざるを得ませんでしたが、「平均年齢を下げるポイント・ゲッターで、太極拳部会の男性アイドル」を秘かに自負しております。

さて、実技の方はと言いますと、予習・復習をせず、常にぶっつけ本番の体たらくで一向に上達致しませんで、学生時代同様劣等性です。世が世であれば除籍・抹籍ものですが、諸先輩のご好意に甘えて会員資格を維持している状態です。女性の方々は研究心、向上心が旺盛で上達も早いようにお見受けします。一方、男性陣は・・・（言うと諸先輩にお叱りを受けそうですので差し控えます）。

私は営業職に就いている関係で、土曜に割合用事が入ってしまい、最近はとみに出席率が悪く残念に思います。少しづつ顔ぶれは変化しているようですが、私も“東久留米お達者クラブ”に末永くお付き合いさせて戴きたいと考えております。太極拳の効用で何時までも皆若々しく健康でいられるよう会の隆盛を心より祈念致しております。

＜漢字と私＞－３　　北野　直衛（39年・文）



「雨」　―　日本のように雨の多い国では、雨は生活の一部であり、風景であり共存者である。平安の昔から雨の歌、短歌、詩、俳句など数え切れない詩情を提供してきたのが雨である。雨の文字から二つの風景を思い出した。その一つは、種田山頭火の俳句である。

雨ふるふるさとははだしであるく

彼の育ったころの種田家は、造り酒屋として山口県防府の町でも名の通った素封家であった。早大を中退、俳人として故郷を通過したころは土塀しか残っていなかった。屋敷内の井戸に身を投げた母の面影は脳裏に焼き付いている。そんな零落した生家の土塀の横を、あるいは傘もささずに雨の中を

歩いている山頭火の心情は・・・・。一昨年（平成15年）そんな彼の思いを胸に防府の生家を訪ねたが、秋空は何処までも高く、雨の風情や彼の心情を味わうことは出来なかった。

二つ目は、近年中国旅行に行ったときの雨の事である。4時間に及ぶ桂林の「灕江くだり」を楽しみ、（中略）ゆったりとした河の流れと両岸に広がる墨絵にような桂林の山々に、時の流れすら忘れてデッキに佇んでいた。昨夜購入した掛け軸は、甲骨文字で書かれた「灕江煙雨」であったが、今日の灕江は秋の好天であった。掛け軸に書かれているような雨の灕江を頭に描いていたのに・・・。中国人の書いた甲骨文字の雨をずっと見つめながら、漢字の故郷に来た事を実感していた。防府も桂林も訪れた時は雨ではなかったが、この二つの地名には心の中では何時も雨が降っているのである。

趣味悠遊

山登り（高峰高原）
中島　宏さんご夫妻

水墨画
福田　稔さん

［編集後記］　○東久留米稲門会誕生を期に安宅会長（当時）が発行されていたはがき大の「東稲通信」を引き継いで、A4 版に拡大する「東稲ニュース」の編集を命じられたのは、平成13年の春。以来、“継続は力なり”のみを頼りに、内容や体裁を二の次にして、兎にも角にも隔月発行を心掛けてきました。そして、全会員に一言でも良いから紙上に登場してもらいたく努めてきました。紙上に登場して戴くことで、会員一人ひとりが本紙への参画意識を高め、そしてひいてはそれが東久留米稲門会の絆の拡大強固に繋がるに違いないと、おこがましくも考えたからです。登場戴いた会員数は、いまだ60余名で、全会員の40％にも満ちませんが、近い将来、全員参画が達成されるものと期待しています。○本号を以って、「東稲ニュース」は25号の節目となり、後続を井坂さんに託すことになりました。怠惰、稚拙な私をして、これまで休刊、遅刊もなくまがりなりにも発行を継続して来れたのは、ひとえに編集に深く携わって戴いた諸兄姉の知恵や尽力のお陰であること記すまでもありません。鮎貝盛和、河村洋子、神田尚計、国米家己三、高橋勤、菱山房子、平山正徑、帆角信美、松崎博、森田隆の皆さん。ここに名を揚げて深甚なる謝意を表します。○投稿を頂きながら、紙幅の関係で一部省略、変更をさせていただいたため、或いは筆者の真意が伝わらなかったり、誤植や脱漏で思わぬ誤解を招いたりしたこと多々あったと思います。発行責任者（会長）の意向にそぐわなかったこともしばしばありました。文字にすると、ジョークがジョークにならないことも知りました。この紙面をかりて、数々の失礼をお詫びしお許しを得たいと思います。長い間、本当にありがとうございました。○また「杜の西北」で皆さんのお世話になります。正直、会の機関誌を手がけるのにはいささか心重を感じますが、新編集員の叡智を集め、先達の助言をかりて伝統の「杜の西北」を守りたいと思います。ただ、招来年より総会諸事項を反映して、年次総会後の発刊にすることになったこと、及びなによりも、準備、取材などにそれなりの時間が必要なことから、次号の発行は来年5月以降になりますこと予めご了承下さい。引き続き皆様のご支援ご協力をお願い致します。（比護）